

平成 24 年 6 月 27 日

アオコ情報 (No. 3)

今後 1 週間は大規模なアオコの発生はみられないものの、週の後半にかけて徐々にアオコの発生量が増えて、風向きによってはアオコが集積する場所が増加すると考えられます。

《調査内容》

場所：西浦（土浦（ラスマリーナ）棧橋）、湖心）、北浦（武井沖、安塚沖）

日時：平成 24 年 6 月 27 日 午前 8 時 20 分～午後 12 時 20 分

内容：気象等、アオコの発生状況、ミクロキスティスの細胞数密度

《結果》

①表面水温及び透明度

表面水温は 20℃を超えており、アオコの主要構成種であるミクロキスティス属の増殖可能な水温（最適水温は 30℃程度）になっています

地点名	天気	表面水温 (°C)	透明度 (cm)
土浦	曇り	22.3	70 (65)
湖心	晴れ	22.1	60 (80)
武井沖	晴れ	22.7	90 (100)
安塚沖	晴れ	20.6	95 (80)

注) 透明度の括弧は今年の 6 月 15 日の値

②アオコの発生状況

今回の調査地点では大規模なアオコの発生は確認されませんでした。アオコレベルは今年の6月15日の調査時に比べて上昇しました。また、入り江や港（舟溜）などではアオコが吹き寄せられることによって、局所的にアオコレベルが4～5に達している場所もみられています。

地点名	今回のアオコレベル※	6月15日のアオコレベル
土浦（ラクスリーナ棧橋）	2～3	1～2
湖心	1	0
武井沖	1	0
安塚沖	0	0

※) 霞ヶ浦河川事務所の「見た目アオコ指標」を参考にした。

<http://www.ktr.mlit.go.jp/kasumi/kasumi00190.html>

③ミクロキスティス属の細胞密度（概算値）

ミクロキスティス属は霞ヶ浦の主要なアオコの原因ラン藻で、昨年のアオコの大量発生時はこの種が優占していました。今回の調査と今年6月15日の調査の細胞密度を比べると安塚沖では微増でしたが、武井沖で約10倍に増加しました。ただし、昨年8月のアオコレベル4～5の時のミクロキスティス属の細胞密度は 1×10^5 cells/ml以上であったことと比べると、やや低い細胞密度が維持されています。

地点名	今回の細胞密度 (cells/ml)	6月15日の細胞密度 (cells/ml)
土浦（ラスマリーナ）	2×10^4	—
武井沖	1×10^4	1×10^3
安塚沖	2×10	1×10

④アオコ発生の今後の見通し

アオコの発生と気象条件（水温（気温）、風、日射量など）には密接な関係があることが知られています。気象庁によれば6月29日（金）まで曇り又は雨の日が続くと予測しており、日射量が少なくなることからアオコの増殖を抑制すると考えられます。特に29日（金）は気温が20℃を下回ると予測されており、アオコの増殖を抑制すると考えられます。30日（土）から7月4日（水）までは「曇り」又は「曇り時々晴れ」で推移し、気温は25℃を超えて「平年並み～高め」になると予測されていることから、アオコの発生にやや有利になると考えられます。このことから、今後1週間は大規模なアオコの発生はみられないものの、週の後半にかけて徐々にアオコの発生量が増えて、風向きによってはアオコが集積する場所が増加すると考えられます。



茨城県霞ヶ浦環境科学センター
Ibaraki Kasumigaura Environmental Science Center

担当：湖沼環境研究室
住所：〒300-0023 茨城県土浦市沖宿町1853番地
電話 029(828)0963 (dial in)
FAX 029(828)0968

